第２１回ペスタロッチー教育賞　受賞団体紹介

一般社団法人　実践人の家（じっせんじんのいえ）

「実践人の家」は、民の教育に身を捧げた森信三によって 1975（昭和 50）年に創立された団体である。森は広島高等師範学校在学中に、ペスタロッチー研究者であった福島政雄から強く影響を受けた。その後、京都帝国大学で学び、天王寺師範学校、満州の建国大学で教鞭を執る。敗戦帰国後、教育による日本の再建を願って月刊誌『開顕』（後の『実践人』）を発行し、全国を回って講演を行った。神戸大学教授になるも、引き続き生涯にわたって教育の理論と理想を現実のものとするために苦心した。森の著作に触れ、講演を聴いた人々が彼のもとに集まり、ここを「実践人の家」と呼んで活動の拠り所とする。1992（平成 4）年に森が亡くなった後も、全国各地に「実践人の家」が創られ定期的に読書会や研修会が開かれている。森の教えと実践はそうした地道な活動を通して広がり、今や学校や企業を立て直す理念として注目されている。

実践人の家を通して引き継がれている森の教えに「再建の三原則」がある。1.時を守り、2.場を清め、3.礼を正す、というものである。また、しつけの三原則や立腰教育として知られる教えがある。これらは、全国の小中高等学校の目標とされ、また、企業の理念に掲げられている。効率性や数値化された業績が評価されやすい今日、人として忘れてはならない大切なことを想起させてくれる教えは、森の言葉であることを知らない人たちにもその意義が理解され広がり始めているのである。

森にとってペスタロッチーは研究対象以上の存在であった。戦前の執筆である「ペスタロッチー事蹟」を戦後直後に改訂出版した際、森は「あとがき」に次のように書いている。「今爾敗戦の最深の因が、民族におけるヒュマニティーの思想の欠如にあったということは、必然にまた新日本建設の基礎が、この上に置かれるべきことを意味する。同時にこのことはまた、新教育も根本的には、この思想の上に築かれるべきことが要請せられるといってよい。かく考えて来る時吾々は、そのかみ吾らの先人達が『教聖』として仰いだペスタロッチーの上に、改めて『人類教育の永遠の先達』として、新たなる光の射し初めつつあることを感ぜざるをえない。」

故国スイスの国難を憂い、戦争に苦しむ民衆の子どもたちに必要な教育実践を模索したペスタロッチーの姿は、森にとって戦後日本を再建するための良き導きであったろう。実践人の家は、この森の意を忘れぬよう地道に活動を続けてきた。今、戦後とは異なる意味で、教育そして社会全体の再建が求められている。これに応える言葉を人々に伝えてきた実践人の家の活動は意義深く、第 21 回ペスタロッチー教育賞を贈呈して高く顕彰したい。